

激動の経営

「適切な判断」

石井宏宗は押し寄せ
る数々の苦難を乗り越
えた力ギは、「適切な
判断だった」と振り返
る。そこに次の成長に
つながる新たなアイデ
アが生まれてくるとい

サンシン電気

④

う。現在、サンシング
ループは次の課題に直
面している。「国内市
場はシユリンクしてい
く。これまでのような
電子部品の商社的な事
業は限界になりつつあ
る」。経営学博士でも
ある石井は、新たな戦
略を打ち出した。

2020年に打ち出
したのが新中期経営計
画「サンシン4・0」
だ。自社のノウハウで
社会問題を解決するビ
ジネスにつなげるCS
V（共有価値の創造）
を展開する。
例えば、第5世代通

新中期経営計画



幾度となく降りかかった難局も親子2代で
乗り越えてきた（石井宏宗社長④と石井雅
晴最高顧問、2007年当時）

信（5G）による農業
管理システムや人工知
能（AI）カメラによ
る午睡監視システム、
人工ダイヤモンド合成
などを事業として強化
していく。

「共有価値の創造」に活路

的。監視カメラとAI
を連携させ、無呼吸状
態や発熱症状などを検
出できる。21年内にシ
ステムの完成を目指し
ている。「高齢施設な
どでの健康管理向けに
も応用可能だ」と、少
子高齢時代に対応する
製品として期待を寄せ
る。

人工ダイヤモンド

人工ダイヤモンド合成では
「故人やペットの遺品
から0.3割の人工ダ
イヤを合成する事業を
開始した」。使用済み
の衣類やベットの被毛
などから炭素を抽出
し、特殊ガスを加えな
がらダイヤを蒸着し合

成する。「もともとは
電子部品向けに開発し
た技術。これを遺族の
心を癒やすためのサー
ビスに応用した」とい
う。

キセノン放電管を手
がける新光和（千葉県
八街市）に製造設備を
置き、月産80個ほどに
対応する。石井は「キ
セノン放電管の国内生
産拠点としては塩漬け
になつてしまった。し
かし、人工ダイヤの拠
点として再出発する可
能性が見えてきた」と
感慨深げに語る。電子
部品向け人工ダイヤの
実用化までにはまだ時
間がかかるが、着実に
事業拡大を目指す。

未来を見据えて

「夢を持って、自分
で自分を決める」のが
石井の信条だ。新東電
気に始まるサンシング
ループの歴史を振り返
り、幾度となく降りか
かった難局。親子2代
で乗り越えてきた。逃
げることなく、未来を
見据えて決断すること
を繰り返してきた。

新東電気の時代から
ずっと傍らにあるあの
机に向かい、石井はグ
ループが繰り出す次の
一手に思いを巡らせ
る。（敬称略）
（この項おわり。渋
谷拓海が担当しまし
た）